

3. 医系総合大学の特色を活かした「口腔医学」教育

坂井信裕

我が国では超高齢社会の到来により、さまざまな基礎疾患を有し、薬を服用している患者が、歯科を受診する率が高まっています。また一般医科病棟でも、当該の病気に加えて、さまざまな口腔内の症状を訴える患者が増加しています。さらに、介護が必要な高齢者に対する口腔ケアの重要性も高まっています。本歯学部では、医系総合大学の歯学部である特色を活かし、チーム医療に積極的に従事して国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン(口腔科医)を養成するために、カリキュラムの「社会と歯科医療・チーム医療コース」と「オーラルフィジシャンコース」を通じて、6年一貫の「口腔医学」教育に力を入れています。

オーラルフィジシャンの基盤：

「口腔医学」の基盤として、主に「医療コミュニケーション」と「歯学生の情報リテラシー」を学びます。

医療コミュニケーション：

初年次に「医療コミュニケーション入門」を4学部合同で学びます。2年次には「歯科医療コミュニケーション入門」、「医療面接の基礎」を学び、「高齢者施設実習」で実践します。3年次には「病院病棟体験実習」で、入院患者・家族と医療スタッフとのコミュニケーションおよび全身状態の把握について看護師に学びます。4年次に全身疾患を有する模擬患者と1対1で「医療面接」を行い、全身疾患に対する理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を高めます。

歯学生の情報リテラシー：

患者、家族に最善の医療を提供できる歯科医師になるために、課題から発見した疑問に対して、信頼できる情報に基づいた説明を考え、文章にまとめる能力を身につけます。アクティブラーニングを行うには、クリティカルシンキングと信頼できる情報を入手して活用する「情報リテラシー」能力が必須です。初年次から学年ごとに段階的な演習を実施してアクティブラーニング、情報リテラシー能力を高めます。

ヒトの病気：

医療人としての基礎的医学知識と、安全に歯科医療を実践するための医学的知識を身につけるために、3年次に「ヒトの病気」を学びます。「ヒトの病気」の実習として、「大学附属病院病棟体験実習」と4年次「オーラルフィジシャンの基盤Ⅲ」で基礎疾患を有する模擬患者に対して「医療面接」を行います。

口腔医学とチーム医療：

超高齢社会に対応できるオーラルフィジシャン(口腔科医)になるために、高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応を身につけます。3年次に「口腔医学とチーム医療Ⅰ」と「地域連携歯科医療実習Ⅱ」、4年次に「口腔医学とチーム医療Ⅱ」を学び、5年次・6年次に「地域連携歯科医療実習Ⅲ」「学部連携病棟実習」で実践をします。

また、口腔内科的な疾患（舌痛症、口腔乾燥症、口腔顔面痛など）へ対応できるようにするために、その診断と治療について修得します。

